

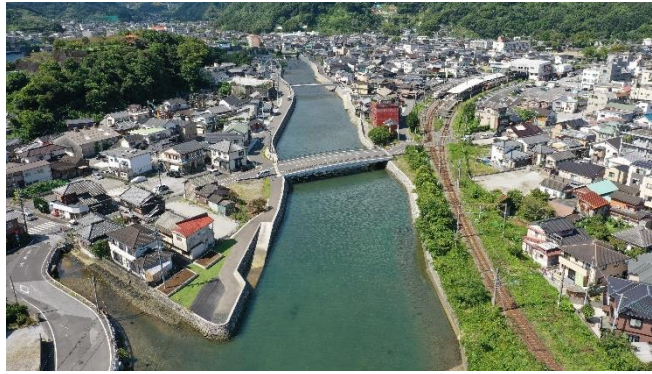
令和5年度全建賞 推薦調書
異なる部門の事業が連携した取組の部(部門連携の部)

ふりがな	としませいせいびけいかくじぎょう・どろろかいりょうじぎょうとれんけいしたつくりがわかせんげきじんさいがいたいさくとくべつきんきゅうじぎょうについて～さいがいからのふっこうにむけたあらたなまちづくりへのちょうせん～
1. 事業(施策)の名称	都市再生整備計画事業・道路改良事業と連携した津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業について～災害からの復興に向けた新たなまちづくりへの挑戦～
2. 事業(施策)実施期間	平成 29 年 12 月 1 日 ～ 令和 5 年 9 月 3 日
3. 事業費(工事費)	津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業(大分県) 5,056 百万円 都市再生整備計画事業(津久見市) 164 百万円 道路改良事業(津久見市) 1,570 百万円
4. キーワード	津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業、まちづくりの連携、地域の活性化
5. 事業概要	大分県臼杵土木事務所の河川激甚災害対策特別緊急事業と津久見市による都市再生整備計画事業と道路改良事業が連携し、津久見川河川改修と津久見川周辺エリアを含めたまちづくりを連携して行った。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 景観に配慮した施工 (d) 事業連携による一体整備 (d) バリアフリーに基づいた橋梁設計	(a) 地域住民とのワークショップ実施 (d) イベント開催による地域活性 (c) 空き家のマッチング実施
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 安心安全な歩行空間の確保 (e) 石積護岸や照明による魅力的な景観 (f) 公園やベンチ設置によるコミュニティ空間創出	(a) 地域住民の防災意識向上 (g) 地域のつながり強化 (g) 移転対象者の市外転出回避

7. 特にアピールしたい点
平成 29 年台風 18 号の豪雨により津久見川が氾濫し、床上 575 戸、床下 412 戸の大規模な浸水被害が発生した。再度災害防止のため津久見川下流部では河川幅の拡幅(引堤)による河川改修を実施し、27 戸の家屋移転が必要となったことから、市民の市外流出や地域コミュニティの喪失が懸念されたが、市と連携し地域住民の意見を反映した河川改修とまちづくりを連携して取り組むことによって、人々が集い、憩いの場となる魅力ある津久見川へと生まれ変わった。

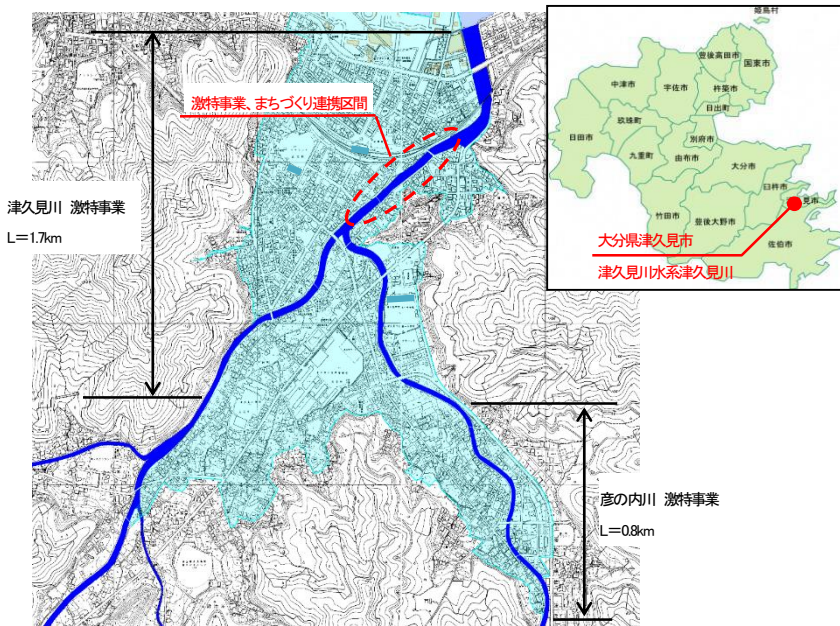
8. 事業を代表する写真及びキャプション



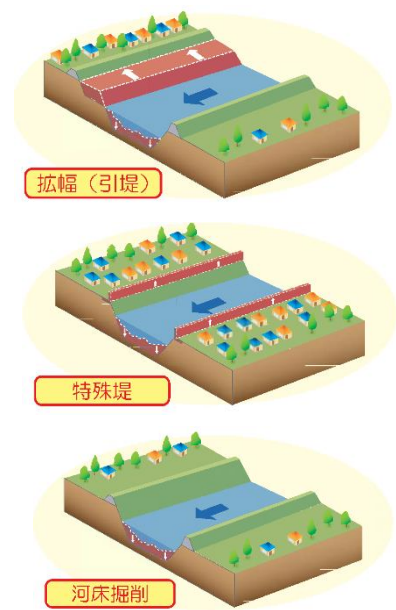
津久見川拡幅区間の全景

9. 事業内容・添付資料

■位置図



■改修内容



河川改修としては、川幅の拡幅(引堤)、特殊堤(パラペット)の設置、河床掘削及び橋梁の架け替えを行い、平成29年の台風と同程度の洪水に対しても河川の氾濫を防止することを目的に治水安全度の向上を図った。津久見川下流部においては、河川改修に伴い、都市再生整備計画事業、道路改良事業と連携し、津久見川周辺のエリアを含めたまちづくりを行った。

①景観に配慮した石積護岸

大分県産の自然石を利用し、石の積み方を工夫することにより自然的で風格のある河川空間を創出した。パラペットは石積との調和を考慮し洗い出し仕上げとし、パラペットの天端下にはLED照明を設置している。



9. 事業内容・添付資料

②景観に配慮した橋梁

桁高を可能な限り薄くし、高欄の支柱を細くすることで見通しが良くなり、圧迫感が軽減された。



人道橋は階段から自転車や車いすも渡れるスロープに変更



奥の景色が見える透過性の高いデザイン

③LED 照明の設置

パラペットと高欄に LED 照明を設置し、津久見川の夜を魅力的な雰囲気演出、夜間歩行時の防犯性が向上した。



LED 照明が津久見の夜を魅力的な雰囲気演出

④市道拡幅計画に合わせた橋梁整備

津久見川の引堤に伴い橋梁が架け替えとなるため、橋梁前後の幅員が狭く危険だった市道の拡幅計画を実施し、橋梁も拡幅計画に合わせて道路幅 5.3m から両側歩道付きの 12m の橋梁に拡幅し架け替え工事を行った。



河川工事前



河川工事後



岩屋三差路

交差点はラウンドアバウトで整備予定

⑤地元住民が集う空間整備

展望広場やポケットパークの整備を実施し、桜の植樹や休憩ができるベンチを設置した。展望公園は津波被害時の一時避難所として活用している。



避難場所としても利用できる展望公園



地域の憩いの場となるポケットパーク

取り壊した護岸の石を使用した蛇かごベンチ

10. 連携した部門

連携した部門（主部門：◎、連携先部門：①～⑤）

道路	河川	都市	住宅	建築	港湾	漁港漁場	鉄道
②	◎	①					

連携した部門に関する情報

	実施機関名	対象事業又は施策	対象事業又は施策の内容
①	津久見市まちづくり課	都市再生整備計画事業	市中心部の活力あふれる定住促進のまちづくり
②	津久見市土木管理課	道路改良事業	市道岩屋線の拡幅
③			
④			
⑤			

11. 異なる部門の事業が連携した取組の概要

河川改修に向けた課題の共有と解決策の検討に加え、津久見川周辺のまちづくりを踏まえた設計案に資する協議を行うため、臼杵土木事務所と津久見市役所、福岡大学景観まちづくり研究室で津久見川プロジェクトチームを結成した。地域住民へのヒアリングやワークショップを行い、河川改修とまちづくりが一体となった計画案を策定した。

12. 各段階における連携の工夫・効果等

①地域住民と河川空間利用を考えるワークショップの開催
事業区間の模型を作成し、河川拡幅後のイメージを共有して津久見川の整備計画についてたくさんの意見を出し合い魅力的な津久見川に向けた計画検討を行った。

②工事現場体験、橋梁開通式の開催
地域住民や学生参加型のイベントを多数実施し、地域交流と防災意識の向上に努めた。



地域住民と津久見川の現状と今後について意見交換



③竣工記念式典、イベントの開催

令和5年9月3日にまちづくりと連携した河川改修工事の竣工を記念して式典とイベントを開催した。地域住民に魅力ある津久見川を体感してもらうため、サップ体験や手作りの竹竿を使った魚釣り体験、打上花火などの様々なイベントを行い、津久見川ではたくさんの地域住民の方々が賑わった。

